

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.1/31(月) ~ R4.2/6(日)

令和4年第5週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	13617人	12534人	-	-
	② 対人口10万人	884.2人	813.9人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.09	1.82	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		91%	88%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		51.1%	43.6%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		2/6現在	1/30現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	280人	216人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	58.7%	45.3%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	11人	4人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	15.9%	5.8%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	17136人	8677人	-	-
	⑨ 対人口10万人	1112.7人	563.4人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	2/6現在	1/30現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	1.6%	2.5%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.1/31 ~ R4.2/6	前週 R4.1/24 ~ R4.1/30	累計 R3.3/11 ~ R4.2/6
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	8件	0件	612件
ο株 (オミクロン)	51件	24件	111件

オミクロン株が検出された場合は、都道府県単位として神奈川県が県内状況を一括して発表を行っているため、ここではこれまではバー(—)表示としてきたところですが、川崎市内でもオミクロン株の増加がみられているため、第2週より川崎市内のオミクロン株の検出状況についても示すこととしました。

なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、昨年（令和3年:2021年）にみられたいわゆる第5波は、感染の状況は第33週（8月16日～22日）をピークに、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして急速に減少し、その後第49週（12月6日～12日）まで減少が続き、第50週より若干の増加傾向となりました。しかし、年が明け令和4年第1週（1月3日～9日）から第5週（今週：1月31日～2月6日）にかけて、新規陽性者数、全療養者（入院・宿泊施設・自宅）数の急速な増加がみられています。重症者の入院も第4週（前週）までは0～4人程度でしたが、今週は11人と増加しています。

ステージ分類は、第44週～第46週はステージⅣ・Ⅲのない状況が3週連続し、第47週～第52週は感染経路不明者の割合がステージⅣとステージⅢ解消を繰り返していましたが、その後はステージⅣ・Ⅲのない状況が続いていました。しかし、年が明け令和4年第1週は、2/6項目（検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅢ、2/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）がステージⅣとなり、第2週は4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣとなりました。第3週及び第4週（前週）は、1/6項目（入院患者病床使用率）がステージⅢ、4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣとなり、第5週（今週）は入院病床率がステージⅢからステージⅣとなったので、5/6項目がステージⅣとなりました。

<感染の状況：直近1週間>

① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人、第49週7人と昨年で最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週に微増、年が明けて第1週522人から、第2週569人→6882人→12,534人と急増し、第5週（今週）は13,617人とさらに増加しました。

② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第48週・第49週0.5人と昨年最も低い数値が続きましたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人と急増し、第5週（今週）は884.2人とさらに増加しました。

ステージ分類は第39～52週と14週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっていました。第1週～第5週（今週）と5週連続してステージⅣとなっています。

③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週～第52週と微増、年が明けて第1週18.0、第2週4.92と増加しましたが、第3週2.68、第4週（前週）1.82と減少、第5週（今週）は1.09と減少しています。これは、新規陽性者数の合計数は急増しているものの、その増加の程度は鈍ってきていることが示されています。ただし、新規陽性者数の急増に伴いその登録に遅れが出てきているという点もあり、このまま鈍化するのか、再び増加傾向に向かうのかは、慎重に経過を見ていく必要があります。

④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となりステージⅢ解消となりました。第42週～第52週はステージⅢ解消～ステージⅣを前後し、その後第51週（72%）～第5週（今週：91%）と6週続けてステージⅣとなっています。

⑤ 検査陽性率は、算定方法を34週から変更しており（表の説明※3）そのため連続性が失われますが、第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週～第52週は微増し、年が明けて第1週9.4%から、第2週26.4%→39.4%→43.6%と急増し、第5週（今週）は51.1%とさらに増加しています。

ステージ分類では第 38 週まではステージⅣでしたが、第 39～第 52 週は 14 週連続してステージⅢ解消となっていました。第 1 週は 9.4%と上昇したためステージⅢとなり、第 2 週～第 5 週（今週）と 3 週連続してステージⅣとなっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 2 月 6 日現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第 34 週（8 月 23 日～29 日）286 人をピークに減少が進み、第 49 週 2 人から第 50 週 5 人→14 人→16 人となりましたが、年が明け第 1 週 23 人から、第 2 週 75 人→134 人→216 人と急増し、第 5 週（今週）280 人と増加が続いています。

確保病床数は現在 477 床となっており、入院病床使用率は、第 52 週 3.4%から、第 1 週 4.8%→15.7%→28.1%→45.3%と急増し、第 5 週（今週）は 58.7%と増加が続いています。

ステージ分類では第 39 週～第 2 週と 16 週連続してステージⅢ解消となっていました。第 3 週・第 4 週（前週）とステージⅢ、そして第 5 週（今週）はステージⅣとなりました。

- ⑦ 重症入院患者数は第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに減少が進み、第 47 週～第 52 週は 0～1 人を前後し、今年に入っても第 1 週 0 人から、第 2 週 1 人→3 人→4 人とやや増加となっていました。第 5 週（今週）は 11 人と明らかな増加となりました。

重症者の確保病床は現在 69 床となっており、重症病床使用率は、第 47 週～第 2 週の間は 0%～1.4%を繰り返していましたが、第 3 週 4.3%、第 4 週（前週）5.8%、第 5 週（今週）15.9%と増加しています。

ステージ分類では第 39 週～第 5 週（今週）と 19 週連続してステージⅢ解消となっており、重症病床としては落ち着いている状態が続いていましたが、第 5 週（今週）は少人数の範囲内ではありますが重症入院患者数は倍増しており、注意すべき状態となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 33 週 4143 人をピークとして減少が進み、第 49 週は 8 人となりましたが、第 50 週～第 52 週と微増が続き、年が明け第 1 週 367 人、第 2 週 1785 人、第 3 週は 4743 人と昨年のピークである第 33 週 4143 人を上回り、第 4 週（前週）は 8677 人、第 5 週（今週）は 17,136 人とさらに急増しています。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 33 週 269.0 人をピークに減少が進み、第 48 週 0.8 人、第 49 週 0.5 人となりましたが、第 50 週～第 52 週に微増、年が明け第 1 週 23.8 人から、第 2 週 115.9 人→308.0 人→563.4 人と急増、第 5 週（今週）は 1,112.7 人と急増が続いています。

ステージ分類は、第 39～52 週に 14 週連続してステージⅢ解消となっていました。第 1 週はステージⅢ、第 2 週～第 5 週は 4 週連続してステージⅣとなっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が 8 件追加され、令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 1 月 30 日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は 612 件となっています。

新たな変異株（オミクロン株：o）が国内でも急増しています。オミクロン株の公表は、都道府県単位のため神奈川県が県内状況を一括して発表を行っていますが、本市では本年第 2 週より市内での状況を示すこととしております。なお、ここで記載しているオミクロン株の検出件数は、詳細なゲノム解析によって確定された数で、第 5 週（今週）は 51 件が追加され、令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 2 月 6 日の累計は 111 件となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、新規陽性者数は昨年（令和 3 年）第 50～第 52 週の微増傾向から年が明け令和 4 年の第 1 週～第 3 週と連続して急増し、昨年のピークである第 33 週（8 月 16 日～22 日）の 4308 人を上回りました。第 4 週（前週）は 12,534 人、第 5 週（今週）

13,617人とさらに増加しています。

入院中患者数、入院・自宅および宿泊療養者総数の増加も著しくなっており、重症入院患者は0～1人から、第4週（前週）4人から第5週（今週）は11人と増加しています。ステージ分類では、第3週・第4週（前週）は1/6項目（入院患者病床使用率）がステージⅢ、4/6項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合に加えて検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅣの状況が2週連続し、第5週（今週）は入院病床率がステージⅢからステージⅣとなったので、5/6項目がステージⅣとなりました。

これまでの国内外の報告によるオミクロン株感染者は軽症者が多いということは良いニュースであり、本市でも重症者数は少数とあってよい状況にとどまっていますが、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は引き続き増加しています。感染の広がりスピードが速く、また急速な感染者数の増加は医療機関や保健所などでの負担の増加のみならず、一般生活や一般医療に影響が及びます。川崎市を含む神奈川県及び首都圏1都3県は1月21日より、2月6日現在では全国35都道府県がまん延防止重点措置の適応地域となっています。

普段の生活に大変なご不便、ご迷惑をおかけしていますが、新型コロナウイルスに感染しないよう、広がりを抑えるようにするのは、市民お一人お一人の注意によるところが大です。感染の広がりを抑え、またご自分に及ぶリスクは少ないとしても身の回りの方が感染を受けて重症者にならぬよう、感染リスクが高まる行動はしばらくの間避けてくださるようお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、いろいろな場において感染を受けない、感染をさせないための基本的なかつ重要な注意点であり、デルタ型ウイルスであってもオミクロン型ウイルスであっても変わらない有効な予防対策法です。また、外での飲食やどちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。日常生活をできるだけ取り戻し、それが維持できるようになるため、ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、オミクロン株の場合、潜伏期間はこれまでのおおよそ5日間から3日間と短くなり、感染の広がりには3～4倍に早くなっているため、感染が急速に拡大していることとなります。人に感染をさせるようなウイルスは発症から9日間以内に、あるいは症状から改善してから2日間以内に消失する（人にうつさなくなる）とされています。ワクチンを2回接種した人たちは、接種していない人たちに比べて入院率・重症化率は明らかに低くなるのが国内外から報告されています。一方2回の接種を受けても完全に発病を防げるわけではなく、その場合には他の人に感染を広げることもあり、また中には中～重症になる場合もあるので、3回目の接種をできるだけ早く受けておくことをお勧めします。